

東京都議会議員（江東区選出）

白戸 太郎

しらとたろう

プロフィール

1966年京都府生まれ／同志社香里高校卒／1989年中央大学商学部卒業／1992年日本体育大学体育学部卒業／1995年日本体育大学大学院修了／元プロトライアスリート／2017年から東京都議会議員。2021年7月より文教委員会委員長として2期目をスタート
都民ファーストの会東京都議団／都議会文教委員会委員／オリンピック・パラリンピック特別委員会委員／東京都スポーツ振興審議会委員／卸売市場審議会委員



白戸太郎 公式HP

東京の未来を見据え、子育て・環境・デジタルなど新たな取り組みを加速します。

都民ファーストの会東京都議団の提案を反映した、総額16兆円の令和5年度予算案が可決成立しました。

都独自の3つの少子化対策 4月からスタート

所得制限なく東京都に暮らす全ての子どもと親が対象

- 1 児童手当に都独自の上乗せ
18歳まで月額5,000円を給付
- 2 第2子から
保育料を無償化
- 3 出産応援事業を継続・充実
(都独自支援12万円に国支援10万円が追加)
(産前6万円+出産時10万円+1年後6万円)

むかしに比べて金額が上昇している、出産・育児・教育の費用について
個人負担を軽減して、希望する数の子供が持てるよう支援します。



関東大震災から100年 防災対策をさらに強化

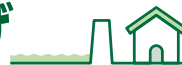
これまで取り組んできた、緊急輸送道路の確保や木造密集地域の不燃化対策など、未だ進んでいないエリアを重点的に推進します。

加えて新規に

耐震改修において、これまで対象となっていなかった平成12年以前に建築された新耐震基準の建物にも、耐震改修費用等を補助開始



温暖化による海面上昇や台風の巨大化等に対応し、防潮堤を段階的に嵩上げ



多摩地域において市町村の所管する雨水管や下水道管の能力向上や耐震化についても新たに支援し、内水氾濫を防ぎます

豪雨の際に水を貯える調節池の整備時期を前倒しして実施



町会・自治会の防災備品の見直しを支援
30万円 補助率100%



マンション防災を支援
防災備蓄資器材の整備費用を補助率3分の2で支援



学校や公共施設等の避難所のWi-Fiを整備、衛星を使った災害時通信環境の維持



脱炭素の取り組みを加速

カーボンハーフ:2030年までに2000年比50%の実現へ

ハウスメーカー等に対して、新規建築する住宅等への太陽光パネルの設置等を条件付き※で義務化。

2年後の運用開始に向けて、先行して仕組みを構築します。※屋根面積や日当たり等を加味した条件を満たす物件のみが対象

太陽光パネル等の設置への助成を拡充
初期費用のかからないサービスの実施を支援



パネルリサイクルや資源循環のための関係事業者による協議会の立ち上げ



国産パネルや代替産地など、製造工程において人権侵害等のないパネル調達



蓄電池・住宅断熱化・エコキュート・EV充電設備等についても併せて助成を拡充



また、電池で動くEV車の購入費補助や、バスやトラック等のEV車両の購入費補助、併せて充電機器の設置費について補助を拡大します。
さらに、エネルギーの貯蔵や輸送に優れた水素について、再生エネルギーから生み出し利用する(グリーン水素)ことも取り組みを強化します。

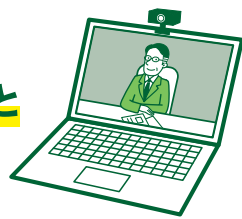
人を育てる、教育環境の充実に取り組んでいます！

都民ファーストの会東京都議団の今期の重点領域

これまでの
取り組み

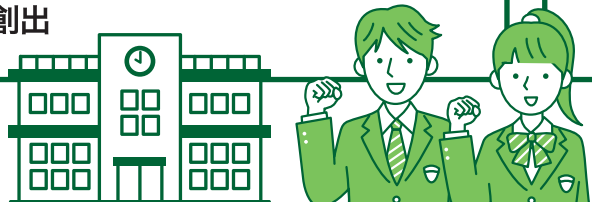
- 1人1台端末の早期実現
- ICT支援員の配置
- スクール・サポート・スタッフの配置

将来の環境変化を見据え、子どもたちの
生き抜く力を育めるよう、**教員の負担軽減と
教育の質向上を両輪で進めていきます。**



情報分野の強化

- 今年度より、高校で必修化した情報Ⅰでは、情報の教員向けの研修に加え、外部専門人材の活用を開始。来年度はさらに情報Ⅱに対応した教員の研修等を実施
- 都立高校生5,000人にモバイルアプリの開発ソフトを提供、スキルを習得するためのワークショップを実施予定。また、プログラミングコンテスト等を開催
- 米国のコンピュータクラブハウスの取り組みを参考に、初歩のプログラミングや創作活動など、子供たちが気軽にデジタルに触れ、楽しむことのできる場所を創出



英語教育の強化

- 都立高校の入学試験に英語スピーキングテストを導入
- ネイティブ講師との1対1のオンライン英会話を全都立高校に拡大
- 外国人英語等指導助手(JET)を全校2名以上の配置へ拡大
- 高校生等を対象とした英語プレゼンテーション大会を新たに実施
- 都立高校生の海外交流事業を拡充し、3年で、1,000人以上の高校生を世界各国に派遣

教員の負担軽減

- 小中学校で授業準備等のサポートを行うスクール・サポート・スタッフを来年度約2,000人まで拡充
- 外国語活動等の外部人材を小学校の特別非常勤講師として任用する区市町村を支援し、来年度950学級に拡充
- 学年主任、特色ある教育活動等を担う教員、ICTリーダーなどの授業時数を軽減するために時間講師等を配置拡充
- 公立中学校における休日の部活動について、地域の運営団体等と連携して取り組めるよう区市町村を支援。部活動の地域移行を推進
- 教員が産休・育休を取得できるよう臨時的任用教員を、最大4か月前倒しで任用、年度途中での確保を可能とする

白戸太郎の視点 ～取組の一例～

海の森競技場、海の森公園をもっと開かれたものに！

東京湾にできた大きな水と緑の公園や施設をもっと活用していくべきと取り組んでいます。特に水上競技場はもっと気軽に、誰でもいつでも利用しやすい施設にすべく取り組んでいます。



自転車イベント レインボーライド

初めてレインボーブリッジを渡る自転車イベントが出来ました。今後イベントを通じ、自転車の魅力を発信し、関心や注目度を高めながら、自転車利用における社会的理解を高め、誰もが楽しく安全に自転車を活用できる社会の実現を進めます。

子どもを笑顔にしたい！「笑顔にするプロジェクト」

「コロナ禍で活動の制限された子ども達の体験活動の場」という我々の訴えで実現した「子供を笑顔にするプロジェクト」は、1,717校という多くの学校で開催され、多くの子ども達に笑顔が届けられました。来年度も「協働して課題解決に取り組む体験」や「他者理解・共生社会に資する体験」、「科学・技術に触れる体験」を充実し、積極性・協調性、コミュニケーション力など、豊かな心の育成に向けて取り組んでいます。

「こうのとりのゆりかご」視察

通称「赤ちゃんポスト」と言われている施策ですが、まだまだハードルが少なくありません。しかしこれで救える命があるならばとも考えます。東京都としてどのように取り組んでいくのか関係者と議論を進めています。11月22日には知事に検討の要望をいたしました。



臨海地域のインフラ改善

人口増加に追いついていない臨海部のインフラを改善していきます。4月1日よりBRTがプレ2次運行に入り、有明、豊洲に延長されます。今後の本格運行に向けてさらに調整を進めています。また、東京駅から延びる臨海地下鉄構想も進みだしましたが、これは時間がかかるので、それまではバスの活用を中心に舟運の検討も続けています。



■都政・都議会についての
ご意見・ご要望をお聞かせください

東京都議会議員

白戸太郎

連絡先住所 〒135-0042 江東区木場5-3-8内藤ビル301
電話番号: 03-5809-8150/8159 FAX番号: 03-5620-0610